

京田辺市長賞

New World Street (油画) / 河内弘安 (京田辺市)

大阪市内で生まれ育った私は、今でも大阪の街が好きです。通天閣に続く新世界通りは大阪的な雰囲気が色濃く漂うごちゃごちゃした街で、道の両側からこれでもかと競り出すド派手な看板は、この街特有の景観を作っています。こんな大阪の明るく楽しい街を現場でのスケッチをもとに描きました。



京田辺芸術家協会賞

雪の朝・田辺公園 (油画) / 中島浩 (京田辺市)

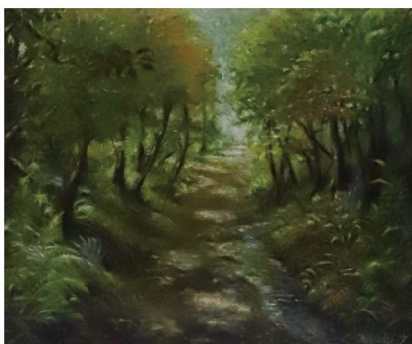
これまで何度か絵に描いたことのあるお気に入りの風景です。この年の正月の朝、京田辺市には珍しく雪が降り積もり、とても明るく優しい光がこのまちに降り注いでいました。その時の白く輝く光景に感動し、作品にしました。



京田辺市文化協会賞

天空の楽園 (日本画) / 若林清淳 (京田辺市)

「星が最も輝いて見える場所」として有名な所。友が二度、三度と見に行きましたが、天候に恵まれず絵で少しオーロラ風に輝かして見ました。



京田辺市教育委員会賞

道 (油画) / 立本美幸 (京田辺市)

ふりかえって見た散歩道。いつもと違って見えました。



U 18 審査員賞

自蛾喪失 (日本画) / 今井萌花 (宇治市)

蛾への愛があふれてしまっている少女を描きました。絵の蛾はエゾスズメといい、翅の模様が表裏一緒で、とても美しい蛾です。

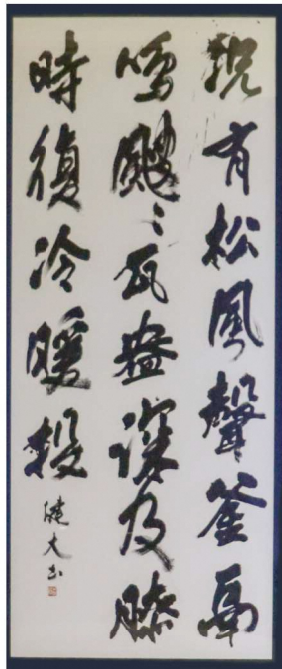
講評

例年は、落選作品から選ばせてもらっていた。ところが今年は、賞作品から決定していった。筆づかいのうまい・へたはあるものの、何を描きたいのかは、どの作品にも良くあらわされていたと思う。そうした意味においてまず、落選を選ぶのはむずかしかった。

選んだ作品をあらためて見ると、季節や時間に敏感な作品を選んだことがわかる。たとえば、河内さんの都会風景ではあっても、傾く日ざしをあびた街の喧騒は、どこか懐かしい。街に生活する人々の気持ちをも表しているかのようである。

高校生の今井さんの作品は、幻想性をまとめる力があっておもしろかった。今後の活動を期待したい。

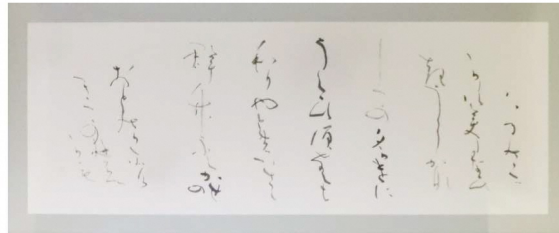
作品とは、風景でも人物でも、自分が見ているものに対し、見ることで新たな発見をすることではないだろうか。絵を描くとは、その手助けをしてもらえることではないだろうか。



京田辺市長賞

蘇東坡詩／白川健大（京田辺市）

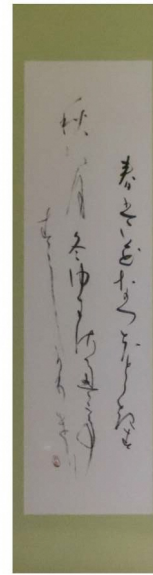
米芾など、宋代の古典を基盤に製作しました。しっかりと力強い線を引っぱる事と、確かな字形をとる事を意識しましたが、思うように手が動かず、古典の持つ格調から大きく離れてしまいました。良くも悪くも気持ちの発露が大きく見えるのが、自分の作品の良い所だと思しますので、思い切った気持ちで製作しました。



京田辺市教育委員会賞

群竹／山下真弓（京田辺市）

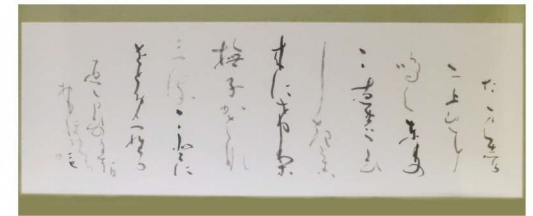
万葉集の中から二首書きました。夕暮れのもの悲しさ、静けさが表現されている歌で、墨の潤濁、筆線の細太と文字の大きさを意識して歌の流れを表現してみました。



京田辺芸術家協会賞

春夏秋冬／玉井玉窗（京田辺市）

春には桜や菜の花等、様々に色どられ、鳥の聲を耳にする季節を迎え、夜空にさえる月を目に、舞い落ちる風花に身を置き、この短歌の中に恵まれた自然に囲まれている日々を重ね感謝。



京田辺市文化協会賞

二上山／蔵田史子（京田辺市）

万葉集2首。文字の大小、墨の濃淡、渴筆等で変化のある作品に仕上げたと思いました。

講評

新しい令和の御代に入り、気分一新、第3回のこの展覧会には前回を上回る多くの作品が寄せられました。審査にあたりましては、まず文字の確かさ、詩文の正確さを見た上で、芸術作品としての書作品がより仕上げられているかを拝見いたしました。

今回は、その点で誤字というまではないもののいささか文字の造形・くずし形に問題がある作品が散見されたり、旧仮名遣いである所が新仮名遣いになっていたりなど、残念なことで入賞からもれてしまった作品も多く見られました。

書は文字を扱うものですから、思い込みの形をそのまま書くのではなく、しっかりと調べてからお書きになることをお勧めいたします。

もう1点、墨色という点もよく考えて、今後がんばって制作ください。

また、来年もご出品いただきたく存じます。

審査員 日比野実

講評

漢字作品は半切が中心で、やや小振りな物が多かった。その中で京田辺市長賞に輝いた作品は、スケールの大きい堂々としたものだった。

大きな紙面で、思い切って書かれた書は迫力もあり、書の本来持っている魅力を存分に発揮しているものであった。願わくば、その黒の魅力の対極にある白の魅力を意識して、上品さが加われば更に高い境地の作品になったであろう。

今回ご出品の漢字作品は、皆とても上手でした。しかし、その技術だけの披露に留まらず、更なる個性的な表現を目指されることに期待します。自らの趣向が全面に表現された書を是非とも目指してください。

審査員 尾西正成



京田辺市長賞

茶園の造形（和束町）／
向平尚武（京田辺市）

冷え込んだ早朝、山の上に有る茶園に来てみると、薄らと霧がおりていて、お茶の葉っぱが白く見えて来た。良く見ると地形に合わせて茶の木が植えられていて、その形にアート性が感じられ、このタイトルにした。



京田辺芸術家協会賞

私の原風景（京田辺市）／岩崎一郎（京田辺市）

原風景とは、山あり、川あり、そして人々が営む生活感があるもので、秋の初め、彼岸の時期に咲く彼岸花（曼珠沙華）もそれを感じ、表現してくれます。私はこの時期に、原風景を求めて出かけます。この年それは意外にも、この京田辺市で見つけることができました。早朝、彼岸花が咲き、金色に輝く稲、人々の生活を支える景色がそこに見えてきて、この作品で表現できました。



京田辺市教育委員会賞

一休寺薪能通小町（京田辺市）／
村山征義（京田辺市）

第35回一休寺方丈能舞台は、観客と演者が本当に間近です。衣装のすれる音、息遣いも感じ取れる。「通小町白夜通いの様」「霊の世界」能面の表情の変化を少しでも引き出す事が出来たらと、一瞬一瞬を集中してシャッターを押した作品です。



京田辺市文化協会賞

厳寒の朝（久御山町）／金井正顕（宇治市）

まだまだ寒い初春の早朝に、聖護院大根の出荷のピークを迎え、家族総出で伝統の味を全国の皆様に届けるべく、かじかむ手と足を止める事なく、お仕事をしている所を、撮影させていただいた作品です。



U 18 審査員賞

努力（京田辺市）／大槻雅史（京田辺市）

音楽家のような雰囲気、演奏に溶け込んでいる姿がカッコ良く僕の目に映りました。シャッターチャンスです！！

講 評

第3回目の市展の審査をさせていただきました。京田辺市近郊の作品に多く出会いました。

市長賞の作品は、申し分なく群を抜いていました。

他入選作等には、それぞれ問題点も有るかも知れませんが、奨励と市展の今後の発展を願って選びました。

又、U18審査員賞の作品3点の中に、今後期待が出来る作品がありました。

審査員 山本一